



市民病院

# 八十ちゃん通信

問合せ  
市民病院管理課  
☎(48)5050

## 小学生病院体験ツアーを開催します



地域の皆さんが病院に愛着を持っていただけるように、また、未来の医療従事者を夢みてもらえるように、医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、臨床工学技士、栄養士、歯科衛生士など、さまざまな職種の仕事を体験できるように準備しています。たくさんの楽しい企画を用意して待っています。

**とき** 7月25日(木) 10時～17時15分  
**ところ** 市民病院

**対象** 碧南、西尾、安城、高浜市内在住の小学5・6年生と保護者

※昨年参加した小学生は参加できません。

**定員** 12組程度(申込み多数の場合は抽せん)

**申込み** 7月1日(月)(消印有効)までに往復はがきに必要事項を記入し、市民病院管理課(〒447-8502 平和町3-6)

**往信裏面** ①参加者氏名(ふりがな)、性別、保護者氏名(ふりがな)、性別②学校名・学年③郵便番号・住所④電話番号

**返信表面** 参加者の①郵便番号・住所②氏名

### 【記載例】

<p>往信 〒447-8502</p> <p>碧南市平和町3-6 碧南市民病院 管理課行</p>	<p>何も書かないで ください</p>	<p>返信 参加者の</p> <p>①郵便番号・住所 ②氏名</p>	<p>(裏面)</p> <p>①参加者氏名 (ふりがな)・性別 保護者氏名 (ふりがな)・性別 ②学校名・学年 ③郵便番号・住所 ④電話番号</p>
--	-------------------------	--	--

※7月10日(水)までに参加可否の連絡がない場合、お問い合わせください。

## 碧南の歴史へのいざない

問合せ  
文化財課内市史資料  
調査室 ☎(41)4566

### No.61 鷲塚城主 水野忠重(4)

水野忠重とともに鷲塚へ来た水野太郎作(清久)は、自らの覚書『水野左近覚書』を書き残しています。そのなかで、家康と太郎作の父親(太郎作清信)との永禄6年秋の片山家でのやり取りが次のように詳細に書かれています。家康は「桶狭間合戦の一番やりは、太郎作殿であったとのことですが」と父に問い、父は「その一番やりは、私でなく息子が一番やりの高名をあげたのです」と答えたというのです。

「これは家康様にお仕える前のことですが、家康様が一番やりのことを御存じだったので覚書に書くのです」と書いています。家康が忠重、太郎作らに「我が陣営にあるべし」と説得したことも書き残されています。

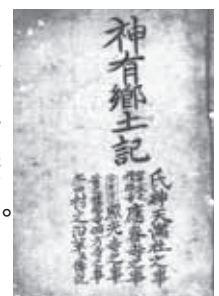


片山家には、水野家武將たちの武具と、縁起ものの「勝栗」を用意したことが伝えられています。

忠重、太郎作ら水野家の武將たちは、家康の岡崎城に入り、一揆方の大将を討ち取るという活躍が『徳川実紀』など多くの歴史書に書かれています。

『片山家文書』には「これは水野家が徳川家に御奉公する最初のできごとだ」と書いてあります。

片山家で浪人をしていた水野忠重、太郎作らは、家康に仕え、この一揆で活躍すると、そのまま家康に仕えました。『神有郷土記』には「岡崎の城主、徳川家康は鷲塚村の城山に砦城を築き、母の弟水野忠重をその城主に任じ本村を支配させる」とあります。浪人をしていた忠重は、姉お亀のところに居たことで、家康の窮地を助けることができました。忠重、太郎作らは大活躍をし、そのまま家康に仕え、鷲塚の支配をまかされました。家康22歳、忠重23歳の時のことでした。



△神有郷土記  
(個人蔵)